

—6の「ツイン・オッター」型取発輸送機、そしてDNC—7の「ダッシュ7型」四発中型輸送機とSTOLの新機種開発が相ついたのである。前述のカナディア社のチャレンジャー機がエンジンをはじめとする資材の大半を米国におおき、米国式販売方式を採用、米国ビジネス・ジェット機市場に切り込むという従来のカナダ航空機産業になかった思い切った行き方で商業的成功をおさめたのと対照的に、デハビランド社はツイン・オッター機やダッシュ7機の売り込みにあたり、政府在外公館、輸出振興公社などの強力な後押しで少しづつ販路をひろげるといふ方式をとっている。もちろん、機種の違いはあるが、同じ国営企業でありながら企業のカラー、経営姿勢もかなり違うといふ印象を私はうけた。

W・サンドフォード社長は「うちの企業は他社の機種と競合しない独自のものだ。STOL機の分野で米国のボーイング社のような企業に育てあげたい」と、意欲をもやしていた。

デハビランド社が現在、売り込みの主力にしているのは、四発中型輸送機の「ダッシュ7」である。本年三月十五日から六月末まで、世界六十か国をデモンストレーション飛行してきたが、二人のパイロットと数人の整備員が塔乗、一日のトラブルもなく信頼性の高さとコミュニケーション・ブレーン、つまり「通勤用空飛ぶバス」（五十七人乗り）としての便利さが、とくに米国あたりでうけたようだ。

このようにダッシュ7の特色は①重力

と出力のバランスがきわめてよいこと②短距離離着陸用のフラップが大きいこと③操縦者の技術より構造的機能によってわずかに八百メートルの滑走路で離着陸できるように設計されていることにある。昨年七月に発売され、すでに五十一機が成約、これまでに十機を完成させている。価格は来年渡し一機五百万ドル、製造ナンバー三十一—三十八番は、付属仕様にもよるが五百二十万—五百五十万ドルの見込みという。

さきにも述べた「ツイン・オッター」は、発売されて十三年、すでに七百機がつくられている。デハビランド社の極東販売支配人をつとめるA・バード氏は「十三年たつても特徴のあるものは充分売れる日本でも日本近距離航空会社を買ってくれた」と前置きしながら次のように語っていた。

「わが社は現在、トランスポーター、ツイン・オッター、ダッシュ7のSTOL三機種を手がけているが、最新のダッシュ7に大きな期待をかけている。日本ではほとんど確定している商談が二つある。一つはツイン・オッター機を運航中の日本近距離航空、もう一つは南西航空だ。航空機のセールスは色々と規制や許認可の関係がからむので時間がかかるのが普通だ。自分としてはダッシュ7が大きな飛行場を使わなくとも、八〇〇メートルの滑走路でまかなえる、しかも五十六人から五十八人も運べるという特色からみて、沖縄諸島や北海道などのローカル地域に最適ではないかと思う。トランスポ-

私は、三さいのときにカナダにきたので、日本のことは母からきいたり、本でよんだりして知っているだけでした。ただ、のり子ちゃんといれ子ちゃんとなみちゃんのことは、よくおぼえています。

日本について一ばんびつくりしたのは、バスのうんでんしゆが、右がわにすわっていることと、車が左がわを走っていることです。それと、みちがせまいことと、えきの自でん車おきばに、自でん車がたくさんありすぎたことです。そして人がいっぱいいて、でん車の中でいねむりしている人とか、本をよんでいる人が多いのも、おどろきました。でん車の中から外を見ると、やねとやねがくつついていて、にわが小さくて、おもしろいかんじでした。デパートに行つたとき、おねえさんが、いつも「いらつしやいませ。」と、あたまをさげているのもゆかいでした。

日本で気に入つたことは、いろいろうっているものがたくさんあって、かわいものが多いことです。たべものもきれいに、かざつてつくつてあつてお

あります。そしてきれいな空で、こうえんがたくさんあるけど、あそぶものはあまりありません。そして日本みたいにたくさんいぼぎたいところは、ありません。だからカナダのくがすきです。私は、いいくにきてよかつたと思ひました。

でも、しなものは日本のものがすきです。ともだちのヘレンは、日本でかつてきたがくようひんを見ると、「プリーズキヤンナイハブイット。」としつこく言います。そして、おりがみをおしえるときしやくしやに作ります。

私は、日本人はきょうであたまがよくて、ものを作るのが、じょうずな気がします。

日本人と、日本のいいものが、カナダみたいにならなかつたら、それはすこいにくくなると思います。

（日本貿易会商社委員会が、海外で生活している日本の子供たちから「小さな国際人」をテーマに募集した作文の入選作より）

かには、すでにツイン・オッターの輸出（すでに四機）で実績のある中国へ「ダッシュ7」を積極的に売り込むことに期待をかけているようであった。

カナダの航空宇宙産業は、近年とくに内需から輸出へ傾斜を強めており、統計が少し古いが、輸出は七六年で全売り上げの八〇パーセントに達している。同年に自由世界では三百六十三億ドルの航空宇宙産業の売上げを記録したが、一位米二百四十五億ドル、二位フランス四十一億ドル、三位英国三十四億ドル、四位西独十五億ドル、五位カナダ八億ドルで